

ダンボちゃん Q&A集

目次

Q1 虫について.....1~2ページ

Q1-1 ダンボール箱の中に虫が湧いてしまった！

Q2 臭いについて.....2ページ

Q2-1 臭いが出た場合

Q3 分解について.....2~3ページ

Q3-1 分解が進まない物をそのまま入れておいてもよい？

Q3-2 寒くなり分解が進まないため、分解を促す方法を知りたい

Q4 生ごみ堆肥について...3ページ

Q4-1 堆肥として利用する場合、塩分や添加物を含んだ物を投入してもよい？

Q4-2 使い方を詳しく教えてほしい

Q4-3 固まりが多く細かくしたい

Q5 その他.....4ページ

Q5-1 生ごみ堆肥を使わない場合、どこに引き渡したらよい？

Q5-2 箱の中身が増えて、いっぱいになったら、どうすればよい？

Q5-3 ベランダ等の場合、ビニールシートをかけても横殴りの雨で濡れてしまう

Q5-4 ダンボール箱と基材の使用期限（限度）はある？

注1)「天地返し」 注2)「発酵促進材」 注3)「生ごみリサイクルサロン」.....5ページ

Q1 虫について

Q1-1 ダンボール箱の中に虫が湧いてしまった！

主に見られる虫は、温かい時期に、①コバエ（3月～9月）、②ミズアブ（6月～9月）、年間を通して発生しやすいのが ③コナダニです。

虫の程度にもよりますが、自然の循環の中には多少の虫はつきものなので、ゼロにはできませんが、次のような対策を実行してみるとだいぶ軽減されます。

① コバエ

40℃以上になると卵が死んでしまうので、廃食油や米ぬか、カロリーの高い生ごみ（タンパク質や炭水化物、油分、糖分など）を入れて基材の温度を上げるようにしてください。

また、^{注1}「天地返し」をすると空気がよく混ざって効果的です。

② アメリカミズアブ

- ◆暑くなってくると成虫が卵を産みにやってくるので、活発な時期（6月～9月）には、生ごみ投入は手早く行なって布カバーをすぐにかぶせてください。
- ◆布カバーを取る前に、黄色い固まり状に産み付けられた卵がないか、布カバーの表面全体をよく観察してください。（布カバーと箱の間に隙間ができるゆったりめのカバーの場合は、カバー裏面も見ると確実です。）
- ◆見つけたら箱の中に入らないように払い落とします。（その後、もし予備と余裕があれば布カバーをよく洗ってください。）
卵の固まりを放置しておくと、卵から孵った糸くずのような小さなミズアブが箱の中に入っていく、幼虫、サナギになり成虫へと育ててしまいます。
- ◆幼虫を見つけたら割りばしなどでつまんで取り除くのが一番手っ取り早いです。
- ◆基材ごとビニール袋に入れて空気を抜き、炎天下で放置して酸欠で死滅させる方法もあります。

③ コナダニ

- 基材が乾燥気味で温度が上がらない時に発生しやすいようです。
- 廃食油や米ぬかなどを入れて発酵させ、50～60℃に温度を上げてください。

Q2 臭いについて

Q2-1 臭いが出た場合

臭いには、発酵臭と腐敗臭があります。

ダンボちゃんに、カロリーの高い生ごみ（タンパク質や炭水化物、油分、糖分など）をたくさん投入すると温度が上がってよく発酵し、その時に出るのが発酵臭です。これは、大したことはありません。

問題となるのは発酵ではなく腐敗した場合の腐敗臭です。

水分過多や酸素不足になると腐敗するので、定期的に^{注1}「天地返し」をしてください。

Q3 分解について

Q3-1 分解が進まない物をそのまま入れておいてもよい？

たとえば玉ねぎの皮やたまごの殻などでしょうか？

基材が使いづらくなるようでしたら取り除いてください。気にならないようでしたら、そのままでもかまいません。

Q3-2 寒くなり分解が進まないため、分解を促す方法を知りたい

温度を上げる方法として、

- ① ダンボール箱を毛布などで包む
- ② 基材の上にお湯を入れたペットボトルを置き、その上に1日分の新聞紙を広げて温室状態にする
- ③ 冬の間は、ダンボちゃんを室内に入れる
- ④ カロリーの高い生ごみ（タンパク質や炭水化物、油分、糖分など）や
注2
「発酵促進材」を入れる

★上記①～④のような方法を組み合わせてやってみてください。

Q4 生ごみ堆肥について

Q4-1 堆肥として利用する場合、塩分や添加物を含んだ物を投入してもよい？

人間が食べる料理に入っている程度の塩分は問題ありません。
また、添加物についても気にする量ではないので大丈夫です。

Q4-2 使い方を詳しく教えてほしい

- ◆堆肥にするには夏場は1ヶ月、冬場は2ヶ月ほどの熟成期間が必要です。熟成させてから使ってください。
- ◆堆肥と土の割合
プランター → 生ごみ堆肥1に対して、土が5程度
畑の場合 → 12mの畝に生ごみ堆肥をダンボちゃん1箱程度を入れてよく混ぜる。
- ◆生ごみ堆肥でプランターのお土の再生もできます。
古土から植物の根などを取り除き、ブルーシートなどに広げて日光によくあててから、上記のような割合で生ごみ堆肥とブレンドしてください。

Q4-3 固まりが多く細かくしたい

畑にはほぐしながら、そのまま入れても構いませんが、プランターには細かくして入れたいですね。
その場合は、ふるいにかけて下さい。
残ったものは、新しい基材で始める際に、ほぐしながら生ごみと合わせて入れると良いです。

Q5 その他

Q5-1 生ごみ堆肥を使わない場合、どこに引き渡したらよい？

諏訪商店街の「あしたやみどり」(042 - 372 - 3690)でお引き取りしています。あしたやみどりでは、回収後、ふるいにかけて熟成させ、市役所や市内数ヶ所の公園や遊歩道などの花壇に提供し、有効に活用しています。

Q5-2 箱の中身が増えて、いっぱいになったら、どうすればよい？

しっかり発酵すると嵩(かさ)は増えません。
冬場に発酵が進まなくなったり、乾燥しすぎたりすると嵩が増えます。
水分を入れて湿度60% (※) にして、カロリーの高い生ごみ(タンパク質や炭水化物、油分、糖分など)や^{注2}「発酵促進材」を入れてよく発酵させてください。

(※)：基材を握って手を広げると、指のあとがつくがホロっと崩れるような状態が60%の湿度です。

Q5-3 ベランダ等の場合、ビニールシートをかけても横殴りの雨で濡れてしまう

台風や大雨の予報の際は、室内に避難させた方がいいです。
または大きなビニール袋で箱全体をすっぽりとくるんでください。
ただしビニール袋で長時間くるむと、ダンボール箱が基材の湿気でふやけてしまうので、注意してください。

Q5-4 ダンボール箱と基材の使用期限(限度)はある？

使い方にもよりますがダンボール箱は半年～1年程度が目安です。
基材は生ごみの総量(累計)にもよりますが、50～60kg入れたら新しくする方がいいでしょう。(1日に250～300gの生ごみを入れた場合、約半年。生ごみを少量しか入れない場合は1年以上使えます。)とはいえ、分解がスムーズに進んでいるうちは、そのままお使いください。

…[目次へ戻る](#)…

注1【天地返し】

ダンボちゃんの箱に90ℓの大きなビニール袋をかぶせて、横に倒し、袋の中に基材を全部出して、固まりをよくほぐし、箱に戻します。

すると基材がサクサクした状態になるので使いやすくなり、臭いもしなくなります。

天地返し用の袋は^{注3}「生ごみリサイクルサロン」で希望者に差し上げています。

注2【発酵促進材】

ベルブ永山3階の「はらっぱ」と諏訪商店街の「あしたやみどり」で、「ゆうきマン」という発酵促進材を販売しています（税込み400円）。ゆうきマン（または米ぬか）を生ごみにまぶしてお使いください。

また「生ごみリサイクルサロン」では、自家製の発酵促進材を差し上げています。

注3【生ごみリサイクルサロン】

ミニ講習や困りごと相談など、ベルブ永山と鶴牧商店街で月1回ずつ開催。

★↓↓生ごみリサイクルサロン↓↓

https://www.city.tama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/149/recyclesalon2023.pdf

…[目次へ戻る](#)…